

審査員による選評

小松 修 審査員 画家・現代童画会常任委員



今年は第30回記念の童画展を迎えました。これまで10回の審査に携わって来ましたが、毎年オリジナリティ溢れる個性的な作品にふれ、楽しませて頂いています。作品集を見返してみると、民話調のなつかしいテーマ、シュールな空想世界、デザイン的やマンガ的表現など、玉手箱的な独自の進化をとげていて非常に興味深いです。今後も「童画」という枠から飛び出て、新

鮮なアートを生みだして行く事を楽しみにしています。

●大賞：「玉子どろぼう」阿部広

作者の体験を自由にのびやかな線できらえ、これまた自由な筆さばきで絵画を画面におき、暖かい動きのある世界を表現して大変魅力的です。これからの新たなのびのびした表現を期待します。

●最優秀賞：「木の空の妖精達」渡辺幸夫

ベニヤパネルの空目（もくめ）を生かした独特なパステル画で、不思議な空目の等高線世界に魅き込まれます。等高線の山、谷の間に潜む人や動物たちを顔を

近づけて見入ってしまいます。

●優秀賞：「自然の記憶」尾形良一

画面をイラストマップの様にブロックに区切り、細密なペン画でオリジナル世界を描き込んでいます。ブロック毎の不思議世界に見入ってしまいます。古代の化石のようでもあり未来の夢世界でもあり、画面の隅から隅までしっかり楽しませて頂きました。

これから広がる世界を楽しみにしています。

猪爪 彦一 審査員 画家・行動美術協会会員



いつも童画とは一般の絵画と、どう違うのかと悩むのですが、自身が子どもに

今年で3回目の審査となりました。新しく宮下東子さんが審査に加わり、これまでとは別の視点でも作品を選んでいただきました。

返ってみれば良いのだと思うことにしています。

大賞「玉子どろぼう」阿部広さんの作品は、農家の庭先での一場面をユーモアを込めて描いています。色調は抑えて使っていますが、引かれた線が魅力的で生き生きとしています。物語に引き込まれてしまいました。

最優秀賞「木の空の妖精達」渡辺幸夫

さんの作品は、パネルの木目を生かしながら色彩豊かに楽しい不思議な世界を出現させました。

優秀賞「自然の記憶」尾形良一さんの作品は、細密に描かれたモチーフたちが画面の中でゆったりと平和に活動する世界を愛情を込めて表現されています。

展覧会全体としてとても充実した内容になりました。

宮下 東子 審査員 専門学芸員・新潟県立近代美術館



でも仕事をしていて思うのは、やっぱり実物を見る、また直に顔をつき合わせて話をするのが一番だということです。

だから、今回初めて審査に加わらせていただきましたが、私の中の審査の基準

ネットやSNSが全盛の昨今です。便利な反面、いろいろと問題もあるようです。実際のものを知らないのにネットのウワサに乗っかったり。

は、誰かと一緒に見て、楽しくお話ができる絵、じっくり見ると発見ができる絵、描かれたものからいろんな想像が広がる絵、でした。

大賞の「玉子どろぼう」は、柔らかい色あいと筆や線のタッチがマッチしていますが、なによりドロポウを前にした動物たちそれぞれの表情が楽しい一点です。それぞれにフキダシをつけてセリフを考えたいですね。見る人それぞれのアイデアを出し合って、豊かな物語が生まれてきそうです。

最優秀賞、優秀賞の作品は、共に卓越した風合をもっています。素材の木目の形を生かした発想の絵、また“自然”というテーマに沿って様々なものを細かく描いたもので、双方とも描かれたいろいろなものを見つけるのが楽しい作品です。

親子で、お友達同士で、あるいはカップルで、入賞・入選作品をじっくりご覧いただき、想像をふくらませながら、またこまかい発見を積み重ねながら、おしゃべりしながら鑑賞していただくと嬉しいですよ。

湯沢町長賞の選出にあたり

田村 正幸 審査員 湯沢町長



小澤奈央さんの作品「めぐるものたち」を見た瞬間、いいなと立ち止まりました。あたたかさ、やさしさ、郷愁を感じました。また、それらがわかりやすく表現されていると思いました。

遠い昔が思い出され、懐かしく、心が穏やかになるそんな作品でした。